

# 冬が来る前にテントを

## —パキスタン地震で緊急支援—

10月8日午後0時50分ごろ（現地時間午前8時50分ごろ）、パキスタン北部を震源に、マグニチュード7.6規模の大地震が発生しました。ピース ウィンズ・ジャパン（PWJ）はただちに、緊急支援の実施を決定。翌9日に隣国アフガニスタンと東京から5人の国際スタッフがパキスタン入りし、活動を開始しました。震源に近いバラコット周辺で、PWJはこれまでに約1400張のテントを配布するなど、厳しい条件のなか支援を実施しています。（内容は原則として11月上旬現在）

### 地震発生、ただちに5人の派遣決定

地震発生のニュースを受けて、PWJは当日の夕方には支援活動の実施を決め、支援チームの編成作業に入りました。

アフガニスタンに駐在して支援活動を行っていた2人のスタッフは9日夕方（現地時間）にパキスタンの首都イスラマバードに入り、東京からのスタッフ3人も9日午前の便で成田空港を出発し、現地時間の9日遅く、パキスタンに到着しました。

PWJの支援チームは、支援の手があまり入っていなかった震源に近い地域を目指して、イスラマバードから北上。震源から最も近い町の一つ、バラコットを支援の拠点に決定しました。



成田空港を出発するスタッフ

### 「他のものはいい、テントを」



雨の中、テントの配給を待つ



配給を待つ被災者の長い列

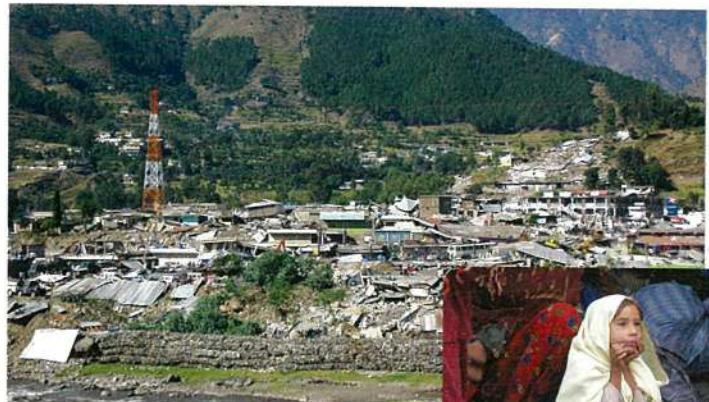


被災者にテントが届いた

バラコットに入った平井礼子たちが目にしたのは、「無傷の建物は一つもない」惨状でした。建物は、ほとんどが全壊。時折、激しい雨も振るなか、被災者たちはトタンやがれきなどを使ってかろうじて、雨をしのいでいました。山間部にあるバラコットでは、冷え込む朝晩は息が白くなり、近くの山々にはすでに冠雪がありました。

「必要なものは何ですか」。平井たちが聞き取り調査をすると、「テント、テント、テント」の答えが返ってきました。「他のものは、何とかなる。テントがほしい」と訴えは切実でした。

テントのほか、キッチンセット（調理・食器セット=皿・カップ・スプーン・フォークなど）、ポリタンクの調達・配布を行うことも決め、被災者の調査・登録作業を開始しました。



### 空陸駆ける調達・輸送作戦

テントをはじめとする援助物資の調達は当初、パキスタン南部の都市カラチと、東部の都市ラホールで主に行いました。第一陣の一員としてパキスタン入りしたロジスティックス（調達・輸送）担当の松田憲たちが、地震発生後まもなく、カラチとラホールで計1000張のテントを確保。後に500張を追加で確保しました。

松田たちを悩ませたのは、輸送でした。カラチで確保したテントをバラコットに届けようとすると、トラックでは途中のイスラマバードまででも3日はかかり、混乱の中で、物資が行方不明になってしまうおそれもあります。そのため、初期段階でPWJは、カラチからイスラマバードまでの輸送に飛行機を活用しました。カラチーイスラマバード間の空輸も大混乱していたため、カラチ発ラホール行きの便を使い、ラホールからイスラマバード、バラコットへはトラックで運ぶというルートも使いました。



テントを満載して夜通し走るトラック

★特集は裏面へ続きます。

この紙は再生紙を使用しています。

## 被災地で迅速に支援を展開

地震発生から1週間後の10月15日、PWJはテントの配布を開始しました。まとまった数のテントの配布としては、被災したパキスタン北部全体をみても、最も早い動きの一つでした。

その後も連日のようにテントを配布し、11月上旬までの配布数は1400張を超えるました。テントを受け取った被災者は、自力で抱えて歩いたり、ロバなどの動物にくくりつけたりして持ち帰っていました。

がれきを除去するためのスコップやツルハシなどを求める被災者が多かったため、これらをまとめたツールセットも、11月上旬から提供する予定です。また、バラコット中心部での物資配布のほか、それまでアクセスができなかった山岳部の周辺集落を対象に、小型トラック（ピックアップ）に物資を積み替えて集落を回る方法を取り入れました。



登録書を手にする被災者



動物を使った輸送

## 現地は厳しい冬の季節に

今はまだ昼間比較的暖かいバラコットに、本格的な冬が到来しつつあります。12月に入ると雪と寒さのため、物資配布も非常に難しくなるというのが援助関係者の共通した見方です。

PWJは冬に備え、屋根が二重になった構造のテント（ダブルフライヤー）の配布も行いましたが、越冬対策としてさらに、テントを覆うシートやストーブなどの調達・配布も検討しています。PWJでは、被災地に冬が来る前に、被災者が冬を越すための準備につながる支援を、全力で展開しています。

### 物資調達拠点を襲った大災害

松田憲（PWJロジスティックス担当）

PWJは、アフガニスタンやイランで緊急支援を実施したとき、大量のテントをパキスタンで購入しました。ところが自国で犠牲者が7万人を超える大災害が起きたことにより、そのパキスタンが大きな混乱に陥りました。

政府・軍も含め、多くの援助関係者が大量に支援物資を求めたため、供給が間に合わなくなり、物資の確保・調達は非常に困難になりました。市場規模に比べて、災害の規模が大きすぎたのです。輸送面はさらに深刻で、支援物資は無償で運ぶというルールが設けられましたが、きちんと機能しませんでした。料金を支払って輸送しようにも、トラックなどの料金は一時、法外な水準に跳ね上がりました。

一方で、心を打たれたこともあります。裕福な人たちが被災地にトラックで乗り付けて物資を配ったり、慈善団体を立ち上げて支援に乗り出したりしていることです。今は大変ですが、この先は、国内の助け合いで復興を果たせるのではないか、と信じています。

## 一刻も早くテントを届けたかった

平井礼子（PWJアフガニスタン駐在スタッフ）

バラコットに入ったときは、親類や知人に会いに来た人や、水や食料、古着などを持つて来た人、災害を見に来たような人たちで混雑し、道路は渋滞。車上から支援物資が配られている場面も見ました。しかし、本当に必要なテントなどは全然、届いていませんでした。

約1ヶ月たち、道路の混雑も不通区間も改善され、再開する商店も出始めていますが、いまだに支援の届いていない集落もあります。がれきの撤去は全く進まず、水・衛生分野の支援も行われていません。

1週間後にテントの配布を開始できたのは、支援団体としては、最も早いものの一つでした。それでも、被災者の立場を考えれば、もっと早く配ってあげたかったという気持ちが今も残っています。



ロバにテントを乗せて帰る

## 募金のお願い

PWJの活動に、ご理解とご協力を願います。

◇郵便振替口座：00160-3-179641

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン  
パキスタン地震救援の場合は、通信欄に、「パキスタン」と明記してください。

◇インターネット募金

インターネットからクレジットカード、イーベンク銀行などを通じて寄付できます。詳しくはPWJのホームページをご覧ください。

<http://www.peace-winds.org>

## ピースウィンズ・ショップ

ピースコーヒー  
ウィンターギフト2005!!

お歳暮に、寒い季節の贈り物に、  
ほっこり温まるピースコーヒーのギフト  
はいかがですか。ご好評のコーヒ  
ー＆ケーキセットに加え、お手頃な  
コーヒーのセットも。赤と緑のコ  
ーヒーパッケージは、クリスマスギフ  
トにもぴったりです。大切な方への  
贈り物に、ぜひご利用ください。

